

ひだまり

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

平成24年3月1日 第3号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

2012Vol. 3

もくじ

宇宙にワクワク! 秋田の子どもたちと古川宇宙飛行士が秋大で交信!	1
後援会活動報告(後援会長), 就職・進学が決まった学生からメッセージ/学部長あいさつ	2・3
教育文化学部の就職活動支援(就職委員長), 就職内定状況	4
就職情報室利用学生インタビュー/縁あればこそ(旭水会のご案内)	5
第2回ホームカミングデー/美術科「卒展」/大学・学部関係行事予定	6



宇宙にワクワク! 秋田の子どもたちと古川宇宙飛行士が秋大で交信!

私たち学生は子ども向けの理科実験教室の開催に取り組んでいますが、2011年度は宇宙教育にも力を入れ活動しました。この年は、古川聡宇宙飛行士が国際宇宙ステーションに長期滞在しました。子どもたちの宇宙に対する興味・関心を高めることをねらいとして、長期滞在中に行われる古川宇宙飛行士との教育交信を中心とした一連のイベントが企画され、教育文化学部を中心とした学生有志がこれに参加しました。私たち学生が主体的に取り組んだものは次の2つです。

1つは、秋田大学「秋田元気プロジェクト」の支援で行った、7月2日(土)の『秋大生と行く「はやぶさ」帰還カプセル見学ツアー』の企画・運営です。秋田県内の子どもたちとその保護者と共に、能代市で展示された小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセルを見学しました。ツアーバスの中では、宇宙クイズや宇宙ビンゴゲームを行い、車内を盛り上げました。いくつか反省点があったものの、参加した子どもたちの「たのしかった」、「他の小惑星探査機や、小惑星のことも知りたいです」という感想から、

興味・関心の高まりを感じることができました。

もう1つは、宇宙探検をテーマとした科学劇「宇宙人に会いに行こう!」の上演です。7月28日(木)に行われた「国際宇宙ステーション教育交信イベント」において、秋田県内の子どもたちと古川聡宇宙飛行士との交信前に上演しました。この科学劇は2010年度の学部開講科目「総合演習」の授業で作成したもので、身近な天体である太陽系の惑星・衛星に焦点を当て、パソコンによるスライドショーに加え、ナレーション、BGMを併用しました。「宇宙教育の父」的川泰宣氏をはじめ、多くの方々がいらっしやる中で上演したこともあり非常に緊張しましたが、見ていただいた方々から評価をいただきとても嬉しく思います。

2011年度、私たちは貴重な体験をさせていただきました。願わくは、これらイベントに参加した秋田県の子どもたちから、将来宇宙飛行士が誕生して欲しいと思います。

人間環境課程3年 岩田英士
大学院教育学研究科1年 明石和夫

平成23年度の 後援会の活動について

教育文化学部後援会 会長 木村 光彦

昨年6月25日の総代会において、伊藤前会長から後援会長を引き継がせていただきました。前会長には、5年間という任期において後援会の円滑な運営や就職情報室の設置等様々な取り組みをいただきました。私も、前会長と同様に学生の完全就職実施を目標に後援会運営に全力で取り組みたいと思っておりますので皆様のご協力をお願いいたします。

さて、平成23年度の後援会活動について紹介させていただきます。今年度は、6月に理事会、総代会を開催し、それを受けて、10月、11月に各地区会を開催しました。その際には、大学の先生がご出席くださり、就職状況をはじめと様々な情報を提供してくださいました。そこで、就職難の時代にあって秋田大学の学生の就職率が比較的高いことを伺い、秋田大学教職員の皆様のご尽力に大変感謝しております。



平成23年度の理事会・総代会の様子

後援会の事業は、卒業生の完全就職の実現に向けた支援が第一です。このために、学生たちの就職活動のための施設や事業の充実を図るよう、就職情報室の活用、就職に関係したセミナーや講座の開催、企業説明会等を大学と連携を取りながら財政面での応援をしております。今後も未曾有の就職難に対応し、よりいっそう充実した支援を実施していくためにも、会員の方々には会費納入については非ご協力いただきたいと存じます。

ひとりでも多くの学生が自分の希望する進路にすすめるよう健闘を期待して、後援会の活動報告とさせていただきます。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

平成23年11月5日(土)に開催した中央地区会にて、4年生就職活動・大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く、今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず、学生にとっても参考になる内容です。

有意義な大学生活と就職活動のために

教育文化学部 国際言語文化課程
欧米文化選修 堅固山 晴香



秋田大学に入学して、私は1つの目標をたてました。それは「若いうちに行えることは、とりあえずやってみる」という事です。その目標をもとに、大学2年のころから2年間「あきた観光レディー」として県内外でのPR活動のお手伝いをさせていただきました。また、ボランティアのチアダンスチームを仲間とともに立ち上げ「スポーツから秋田を元気に」という活動目標のもと秋田のトップスポーツチームを応援し、地域のイベントでチアダンスパフォーマンスを行ってきました。秋田に笑顔と元気を与えるような活動を通して、秋田を自分たちが微力ながらも支えていくことにやりがいを感じ始め、またそこで持ち前の笑顔と明るさが活かせる仕事がしたいと思うようになりました。

就職活動をふりかえてみると、大学時代に取り組んだ事は就職活動にも大きく影響すると実感しました。チアの活動でたくさんのお客様の前で踊り、また観光レディーの仕事で秋田をPRしたことで、前よりも度胸が付き、面接のときもあまり緊張することなく素のままですべて話すことができたと思います。

就職活動中はもちろん不安もありましたが、不安に思う気持ちは自分だけではないと言い聞かせ、今しかない就職活動を楽しもうと思えました。うまくいかないことも当然ありましたが、つぎつぎ!と前向きに考える大切さも改めて感じました。

4月から、新社会人になりますが、今は学生のうちに行えることを楽しみ、銀行員に必要な資格を取得するための勉強もしながら就職活動とおして学んだことを忘れずに日々を過ごしていきたいです。

秋田県の教員を目指して

教育文化学部 学校教育課程
教科教育実践選修 佐藤 真澄



私は中学1年生の頃から、小学校の教員を目指していました。テスト勉強をしていて分からなかった問題が、先生に聞いたことで分かるようになったとき、とてもうれしく勉強することの楽しさを知りました。私も子どもたちに勉強することの楽しさ、面白さを伝えたいと思えました。教員採用試験の勉強を本格的に始めたのは、大学3年の10月です。それまでは、授業や教育実習などに全力で取り組みました。教育実習で学んだことは、教員採用試験の1次試験や2次試験にある面接にも役立ちました。私

は、大学の図書館で開館から閉館まで勉強をしていました。昨年の4月に新しくなった図書館はとても綺麗で静かで集中できました。また、「スタージュ」にも参加し、同じ教員を目指す仲間と教育に関する様々な問題について議論したり、小論文を書く練習をしたり、面接や模擬授業の練習をしたりしました。教授にお願いし、マット運動や水泳、ピアノなど実技試験の練習もしました。やらなければいけないことが多すぎて大変でしたが、時間を上手く使うことができたと思います。また、就職情報室の方々には本当にお世話になりました。教員採用試験のことに限らずそれ以外のことで私が悩んでいるときに、就職情報室の方々に話を聞いてもらえたことで「がんばろう!」と思えました。秋田県の教員採用試験の合格は、私1人の力で掴んだものではありません。教員を目指す仲間、大学の教授、就職情報室の方々、家族などたくさんの人に支えられ、私は頑張ることができました。不安もありますが、来年度から自分の学級をもつことができると思うととてもうれしいです。常に向上心をもって、前向きに頑張っていきたいです。

公務員試験を通じて

教育文化学部 地域科学課程
政策科学選修 **安宅 涼太**



私は大学二年の夏休みに秋田県の事業にアルバイトとして関わり、そこで尊敬できる職員の方に知り合いました。自分自身もその方のような公務員になりたいと思った事が、今思い返せば公務員試験の受験を決心するきっかけだったと思います。

私は生協の公務員講座を受講し、同じ地域科学課程の友人たちと共に勉強に励みました。しかし、その道のりは険しいものでした。一日に12時間以上の勉強時間を確保しても模擬試験で目標とする点数まで届かない等、自分は希望する公務員にはなれないのではないかと不安になる日々が続きました。ただ、そんな中でも勉強を続けることができたのは共に頑張る友人たちのおかげでした。彼らの頑張る姿を見ていると落ち込んでいる暇はないという気持ちになりました。いざ本試験が始まっても、良い結果がでない試験もありましたが「終わったことは気にしないで、間違った問題の復習と苦手分野の克服に時間を割こう」と気持ちを上手くコントロールして、一次試験の期間を乗り切りました。結果、内定先である秋田市役所を含め、複数個の一次試験に合格しました。

二次試験においても、苦勞する面がありましたが、幸い秋田市役所の二次試験は時期が遅かったため既に内定が出ている友人たちからアドバイスをもらい、なんとか自分も合格することができました。

この内容だけを見ていると、私が一人ではなにも出来ないように見えるかも知れませんが一緒に頑張れる友人がいて切磋琢磨し向上していくことは悪いことではありません。後輩の皆さんにも共に頑張れる友人を見つけ、目標にむけて努力することをお勧めします。一人でも多くの後輩が希望の進路を実現できることを近くから応援しています。

学部長あいさつ

教育文化学部長 **池村 好道**

後援会の皆様には、日頃より、本学部、本研究科の教育・研究活動にご理解、ご声援をいただくとともに、学生の就職活動を中心に多大の財政的援助を賜っております。物心両面に亘るご支援に、このスペースを借り、学部長として改めて謝意と敬意を表する次第です。

当方、学部等の機能強化に向け、教職員一丸となつて様々な取組にあたっております。先月(2月)だけでも、前期日程入試に東京会場を新設したり、教員養成充実の意味も込めて附属学校園の外部評価を実施したり、といった具合です。

本誌「ひだまり」では、引き続きこのような学部等の動き、情報のなかから、できるだけ皆様に有意なものを紹介させていただくと同時に、今後は、双方向性を高めることにも意を致すことを通じて、相互理解を一層深めてまいりたいものです。

日々の積み重ね

教育文化学部 人間環境課程
環境応用選修 **須藤 裕太**



高校生の時に本当に進路のことで悩みました。就職、専門学校、短期大学、四年制の大学と選択はたくさんありましたが、環境問題に興味があり、数学の教員免許を取ろうと考えていた私は担任の先生のすすめもあり、秋田大学教育文化学部人間環境課程に入学しました。秋田大学に入学し良き師と出会い、良き仲間と協力することで大学生活を本当に有意義に過ごすことが出来たと思っています。

私は、子どもの頃から自然科学の分野がとても好きでした。大学では学べる環境とチャンスがあると思い、人間環境課程の授業や工学資源学部の授業も受講してたくさんの知識を取り入れようと思いました。震災の影響もあり、エネルギー問題にも興味を持ち、東北大学大学院環境科学研究科を受験しようと考えてようになりました。他大学の大学院に行く場合、研究室訪問をすることが大切です。研究したい分野の先生に連絡を取り、設備や研究の雰囲気事前に調べておく必要があります。受験勉強では図書館を利用し、教員採用試験や公務員試験勉強をしている友人たちと同じ空間で勉強をするように心がけました。一人では出来ないことも、周りから刺激を受けることで学習効率が上がりました。誰かが側にいるという何気ないことが自分にとってとても大きな力になりました。知らないことが多すぎるということに改めて気づき勉強していて楽しかったです。

大学生活を通して思うことはどれだけ高い「意識」を持って学習に取り組めるかということです。すべては自分次第です。就職活動にしても、公務員などの勉強でも普通の授業に対する姿勢や日常生活が影響すると思います。「努力し続けること」「積み重ね」が大切であると感じました。これからさらに努力無限で頑張りたい。

教育文化学部の就職活動支援

就職委員長 中村 裕

この1,2年,学生諸君の就職活動にとって,非常に厳しい状況が続いています。かつて「会社主義」という言葉が,日本の企業(もう少し広く職場全体と考えることもできます)と従業員の関係を表現するものとしてそれなりに使われていました。かつて日本の企業は,厳しい国際市場での競争に打ち勝つために技術革新に努めると共に,従業員を徹底的に鍛える,かつ従業員彼らとその厳しい訓練に耐えられるように,所属組織に対する帰属感,組織との一体性を持つことを要求していました。その背景には,どのような苦しい経済状況のなかでも,攻勢的に拡大の方向で事業展開を図っていくという日本企業の姿勢があったと思います。ところが,昨今のグローバル化,デフレ傾向のなかで,企業の事業の量的拡大の傾向には大きな変化が生じています。その関係で,人件費はできるだけ抑制し,雇用するにしても本当に組織の一員として迎え入れるという確信を与えてくれる人材を採用するという量より質の重視,厳選主義の方針は,ますます鮮明になっています。

デフレ傾向のなかでの少子

化,消費の伸び悩み,そのなかでの高齢者の知識と経験の活用に関する議論。学生諸君の就職活動にとって憂鬱な話ばかりです。しかし,そのようななかにあっても企業(そして学校現場,国,自治体)は,若い人材を採用しない訳にはいかないのです。それぞれの職場は,このように厳しい状況であるからこそ,本当に支持される商品,サービスを提供する事業のなかで有効な仕事を行ってくれる人材を求めているのです。

学生諸君は,こうした環境のなかで自分は何をやりたいのか,かつそうした希望が単なる夢物語に終わらないだけの根拠,自分なりの実績は十分に備えているのかをじっくり考えることが必要です。学部,就職委員会は,学生諸君が状況と自分をしっかりと見極め,自分の方向性を確定し,歩み出すためにできる限りの支援を行っていきます。



11月14日開催「先輩と語る会」の様子

(2月末現在)

就職内定状況

学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他	
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
教育文化学部	学校教育課程	104	13	89	36	53	58	18	40	65.2	50.0	75.5	2
	地域科学課程	71	3	66	24	42	45	14	31	68.2	58.3	73.8	2
	国際言語文化課程	68	2	62	12	50	43	9	34	69.4	75.0	68.0	4
	人間環境課程	59	3	51	25	26	29	8	21	56.9	32.0	80.8	5
	小計	302	21	268	97	171	175	49	126	65.3	50.5	73.7	13
教育学研究科	24	0	20	8	12	17	7	10	85.0	87.5	83.3	4	
合計	326	21	288	105	183	192	56	136	66.7	53.3	74.3	17	

就職情報室 利用学生インタビュー

後援会の会費で運営されている就職情報室。普段、学生はどのように利用しているのかインタビューしました。



答えてくれた学生(前列左から)

学校教育課程教科教育実践選修1年次 伊藤千瑛さん
 学校教育課程教科教育実践選修1年次 藤原由佳梨さん
 学校教育課程教科教育実践選修3年次 柴田英亮さん
 人間環境課程自然環境選修3年次 白取大輔さん
 後列は就職情報室職員の村上さん、信太さん

Q:就職情報室をどのように利用していますか？

柴田:先輩から勧められ、3年の10月頃から利用しています。就職に対する意識を高めようと、大学に来たら必ず立ち寄るようにして、主に説明会やOB訪問の情報収集をしています。就職活動の悩みを聞いてもらうこともあります。

白取:早めの準備が早めの内定につながると思ったので、3年の11月から利用し始めました。就職情報室の方や先生に、エントリーシートを添削してもらっています。何度か書き直して完成まで1週間はかかりますが、だんだん良くなってきたと思います。

Q:利用してみて良かったことは？

柴田:(12月の就職活動解禁より)2ヶ月早く始めていたので、スタート時点で自分の課題が見えて、意識を高く就職活動に臨めたので良かったと思います。

白取:自分は以前からやりたい仕事がありました。まだ決まっていない人はいろいろな情報を得ることで、将来やりたいことが見つかると思います。まず来室して話を聞いて、自分にあった方向性を見つけて欲しいと思います。

Q:1年生のお二人は、スタージュ*に参加しているそうですね？

藤原:4月に講義でスタージュの説明を聞いて、1・2年生もプレスタージュとして参加できると知ったので、登録のために初めて就職情報室に来ました。

伊藤:夏休みにスタージュの話聞いて、藤原さんに誘われて参加するようになりました。申込や出欠連絡のために月1回くらいは就職情報室を利用しています。

Q:参加してみてどうですか？

伊藤:教職の仕組みがよく分かるようになりました。

藤原:一番良かったのは先輩の模擬授業を見せてもらったこと。指導案とかも見せてもらって勉強になりました。

Q:みなさん自分の将来の目標をしっかりとって、がんばっているそうですね。最後に、ご両親へのメッセージをお願いします。

柴田:今まで大学まで通わせてもらった恩返しのために、社会人になって楽をさせてあげられるようにがんばります。

白取:今まで苦勞をかけた分、良い仕事について親孝行したいです。

伊藤:先生になれるようにがんばります。

藤原:大学まで進学させてもらったので、現役で先生になれるようにがんばります。

Q:ありがとうございました。

*スタージュ…教員を目指す学生たちが主体的に行っている勉強会です。大学院に在籍する現職の教員による実践講座や、教員として働く先輩を招いての「語る会」、模擬授業、面接練習など、週1回のペースで年間を通して行っています。

縁あればこそ (旭水会のご案内)

旭水会会長 大友 康二



それぞれが、それぞれの思い出を大切にしているように、もし組織という目に見えないものにも思い出があるとすれば、私達より、ずっと長く遠く、そして広く世界を見てきたことでしょう。

旭水会の組織は、ことばで表現すれば、そんな形のもので。同窓の共通の思い出を集約し、ひとりひとりに語りかけてくるような存在なのです。

大学に事務局(本部)があり、各都市と東京・静岡・千葉の各支部で活動しています。

会員相互の親睦をはかると共に、教育・文化の振興に寄与するを目標としておりますが、実際には年齢を超え人生謳歌のできる楽しい集いです。堅苦しさもなく、この集いを待っている楽しみの会なのです。

年一回発行の機関紙「旭水」は、自画自讃になりますが、内容の充実さで他に類がないと、そのレベルの高さで絶讃されております。

在学生との交流は卒業時、卒業式当日の午後「卒業を祝う会」を主催しています。卒業生の殆ど、またその保護者も参加できますので、懇親祝賀会はすごい盛り上がりを見せております。もちろん教員各位も参加してくれますので保護者の方々が一番喜んでくれています。

卒業を祝う会へのご参加のご案内もかねて旭水会の紹介といたします。



幼児教育研究室の懇談会

教育文化学部ホームカミングデーを開催しました

平成23年10月22日(土)、23日(日)の二日間、旭水会との共催により教育文化学部ホームカミングデーを開催しました。2回目の開催となった今回も前回に引き続き大学祭と同日に開催、多くの卒業生や地域住民の方が訪れました。

今回は、研究室や講座単位の企画を多数開催しました。以下にご紹介します。

- ・理科教育学研究室…子ども理科教室
- ・音楽教育講座…在学生による演奏会
- ・美術教育講座…教員が所蔵する美術作品の展示
- ・幼児教育研究室…OB・OGと在学生による懇談会
- ・地理学研究室…研究室所蔵の地形図や研究室誌の展示
- ・地学研究室…講演会、天文台公開

このように、卒業生の方だけでなく地域住民の方も気軽に参加していただけるような内容で、地域の方々にとっても「ホーム」と呼んでもらえる学部であるように、との意味も込めています。

また、卒業生の濱田純先生(秋田大学北秋田分校長、前秋田県教育次長)による講演会も開催。濱田先生は教育文化学部附属幼稚園副園長、附属小学校副校長を長く務められ、教員としての豊富な経験から、秋田の教育について、特に現役の教員や教員を目指す学生へ向けたメッセージとなるような講演でした。学力日本一と呼ばれるまでになった秋田県の教育の歴史について、さまざまなデータを示しながら、過去の教育委員会と現場の教員の努力や改善点、現在他県から注目される秋田の教育方法について述べられました。



多くの卒業生にとって、また、地域住民の方にとって、身近な存在であり続けるように、母校を気軽に訪れていただく機会として、ホームカミングデーを今後も開催していく予定です。

美術科「第59回卒業記念展」を開催しました

平成24年2月24日(金)～28日(火)の5日間、学校教育課程教科教育実践選修美術科の卒業記念展を秋田県立美術館において開催しました。

この展示は、美術科の学生が、洋画、日本画、彫塑、木材工芸、構成、美術教育の各専門領域において幾多の試行錯誤により学び得た4年間の研究の成果を発表するものです。また、日々の研究・制作活動を活性化し、より充実、発展していくために、卒業生だけでなく在学生の作品や、美術科担当教員による賛助作品も展示。開催案内の広報活動や受付も学生がすべて行い、25の作品・研究成果が並んだ展示ホールには、多くの方が訪れました。

4年次学生さんからコメントをいただきました。

「卒業記念展を開催するにあたって、私たちは日々作品や論文の制作に励んできました。会場の展示については、今回、画材や制作過程の説明パネルを設置し、皆さんにより楽しんでいただけるように心がけました。

4年間大学で学んできたことの集大成を、多くの方にご覧いただくことができ、嬉しく思っています。たくさんのご協力ありがとうございました。

4年次一同」

美術科の「卒展」は毎年2月頃に開催しています。



卒業記念展の様子

大学・学部関係行事予定(平成24年3月～)

- 3月 22日 秋田大学卒業式
- 4月 1日 前期開始
- 4月 3日 春季休業終了
- 4月 4日 開設講義一覧 交付
在来生ガイダンス
入学式
- 4月 5日 新入生ガイダンス
- 4月 9日 授業開始
- 4月 11日 定期健康診断4年生
- 4月 17日 定期健康診断1年生・新編入生・教育学研究科生
- 5月 14日 定期健康診断3年生
- 5月 15日 定期健康診断2年生
- 6月 1日 創立記念日
- 8月 11日 夏季休業開始
- 9月 30日 夏季休業終了・前期終了
- 10月 1日 後期開始
- 10月 20日 大学祭(21日まで)
- 12月 26日 冬季休業開始
- 1月 8日 冬季休業終了
- 1月 17日 センター試験のため臨時休業(1月20日まで)
- 2月 20日 春季休業開始
- 3月 22日 卒業式
- 3月 31日 後期終了

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

ひだまり
Vol.3

平成24年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
広報・地域連携推進委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊
<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>